

令和元年度 箱根町町政モニター第2回アンケート調査結果

1 調査概要

○ 調査テーマ

男女共同参画について

○ 調査理由

平成27年3月に策定した「はこね男女共同参画推進プラン（第2次）」は計画期間を10年としており、その中間年度である令和元年度に必要な応じてプランの見直しを図ることとしていることから、男女共同参画に関する意識や考え方、その他ご意見等を把握するため、調査を実施しました。

○ 回答期間

令和元年12月10日（火）から12月23日（月）まで

○ 対象者

箱根町町政モニター 34人

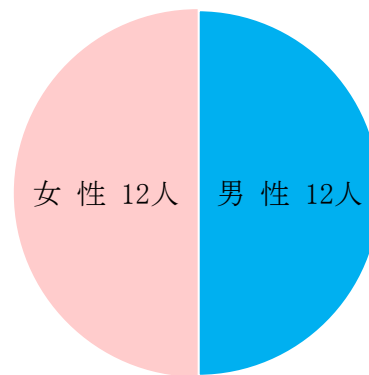
○ 回答者数（回答率）

24人（約70.6%）

○ 回答者の基本属性

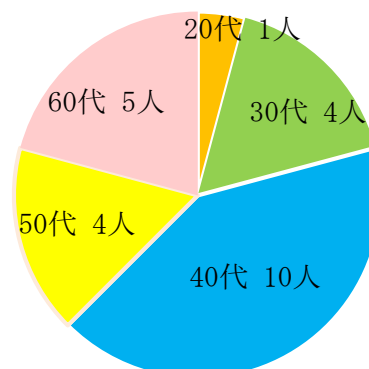
性別	回答者数	割合
男性	12	50.0%
女性	12	50.0%
合計	24	100.0%

【性別】



年齢	回答者数	割合
20代	1	4.2%
30代	4	16.7%
40代	10	41.6%
50代	4	16.7%
60代	5	20.8%
合計	24	100.0%

【年齢】



○ 男女共同参画に関する内容の考え方等について（質問[1]，[9]，[10]）

『男は仕事、女は家庭』という考え方を”固定的な性別役割分担意識”といますが、全回答者が「そうは思わない」（75.0%）、「どちらともいえない」（25.0%）のどちらかを選択しました。

一方で、ワークライフバランスは、「言葉自体を知らない」（25.0%）、「聞いたことがあるが内容はよく分からない」（37.5%）、「良く知っているし、内容も分かる」（37.5%）となり、それぞれの割合が均衡する結果となりました。

また、夫婦や恋人などからの身体的・心理的な暴力について、被害者にも暴力をふるわれる原因があるかという質問は、「そう思わない」（41.7%）、「どちらかといえばそう思わない」（25.0%）が合わせて約7割となり、否定的な傾向が強い結果となりました。

○ 各場面における男女平等感について（質問[2]～[8]）

家庭、職場、学校生活、地域、政治の場、法律・制度の中、社会全体の各場面において、男性と女性のどちらが優位と感じるか調査しました。

【平等と感じる傾向が強い場面】

・学校生活

平等（75.0%）、どちらかというとなり男性（20.8%）

・家庭

平等（45.9%）、どちらかというとなり男性、または女性（各20.8%）

【男性優位と感じる傾向が強い場面】

・政治の場

男性（58.3%）、どちらかというとなり男性（41.7%）

・社会全体

男性（12.5%）、どちらかというとなり男性（70.9%）

・地域

男性（16.7%）、どちらかというとなり男性（62.5%）

学校生活及び家庭においては「平等」の割合が高いことに加え、男女のどちらかが優位という回答が少なかったため、平等と感じる傾向が比較的強い結果となりました。

一方で、政治の場では全回答者が「男性」もしくは「どちらかというとなり男性」を選択し、また、社会全体と地域においても「男性」もしくは「どちらかというとなり男性」を約8割の方が選択しており、男性優位と感じる傾向が比較的強い結果となりました。

○ 男女共同参画社会を実現していくうえでのご意見等について（質問[11]）

家事や育児への理解、男女の違いを認めたくえで助け合うべきなどのご意見、制度面での提案、身の回りで感じたことなど、様々なご意見等がありました。

詳しくは、6・7ページの一覧をご覧ください。

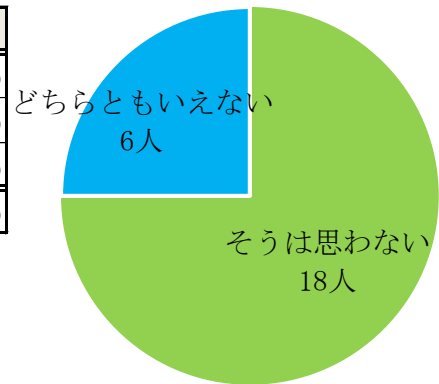
○ 総括

今回の調査では、男女共同参画に関する意識や考え方に加え、回答された方の半数が自由記入欄に記載いただいております、皆さんの身近な課題との関連性や関心の高さを把握することができました。

この結果を参考に現行プランの点検を行い、男女共同参画社会の実現のため、町の取組みを推進していきます。

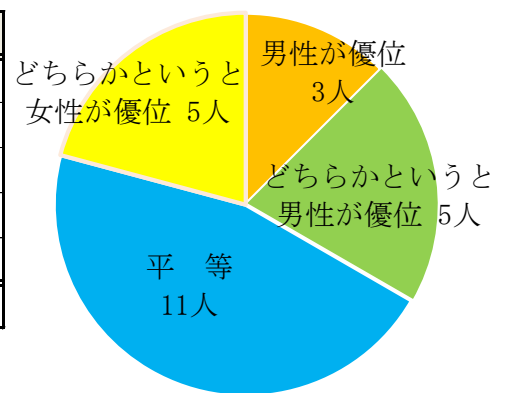
[1] 『男は仕事、女は家庭』という考え方について、あなたの考えに近いものを選択してください。

No.	選択項目	回答数	割合
1	そう思う	0	0.0%
2	そうは思わない	18	75.0%
3	どちらともいえない	6	25.0%
合 計		24	100.0%



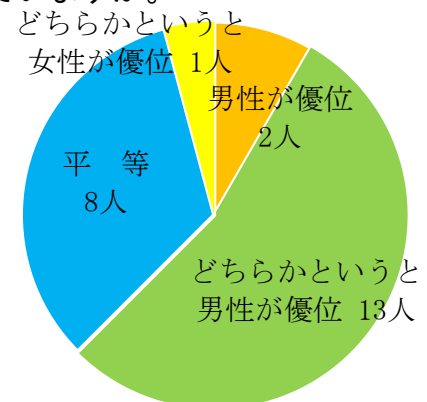
[2] 家庭での男女平等感について、普段どのように感じていますか。

No.	選択項目	回答数	割合
1	男性が優位	3	12.5%
2	どちらかというと男性が優位	5	20.8%
3	平 等	11	45.9%
4	どちらかというと女性が優位	5	20.8%
5	女性が優位	0	0.0%
合 計		24	100.0%



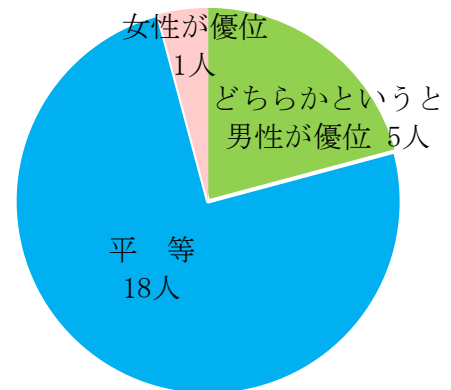
[3] 職場での男女平等感について、普段どのように感じていますか。

No.	選択項目	回答数	割合
1	男性が優位	2	8.3%
2	どちらかというと男性が優位	13	54.2%
3	平 等	8	33.3%
4	どちらかというと女性が優位	1	4.2%
5	女性が優位	0	0.0%
合 計		24	100.0%



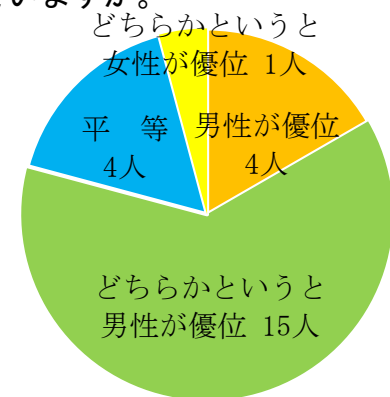
[4] 学校生活での男女平等感について、普段どのように感じていますか。

No.	選択項目	回答数	割合
1	男性が優位	0	0.0%
2	どちらかというと男性が優位	5	20.8%
3	平等	18	75.0%
4	どちらかというと女性が優位	0	0.0%
5	女性が優位	1	4.2%
合計		24	100.0%



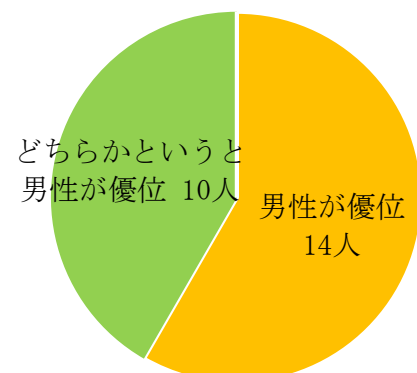
[5] 地域での男女平等感について、普段どのように感じていますか。

No.	選択項目	回答数	割合
1	男性が優位	4	16.7%
2	どちらかというと男性が優位	15	62.5%
3	平等	4	16.7%
4	どちらかというと女性が優位	1	4.1%
5	女性が優位	0	0.0%
合計		24	100.0%



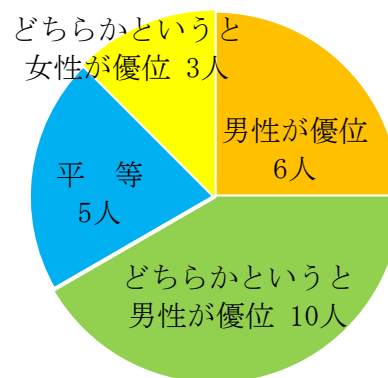
[6] 政治の場での男女平等感について、普段どのように感じていますか。

No.	選択項目	回答数	割合
1	男性が優位	14	58.3%
2	どちらかというと男性が優位	10	41.7%
3	平等	0	0.0%
4	どちらかというと女性が優位	0	0.0%
5	女性が優位	0	0.0%
合計		24	100.0%



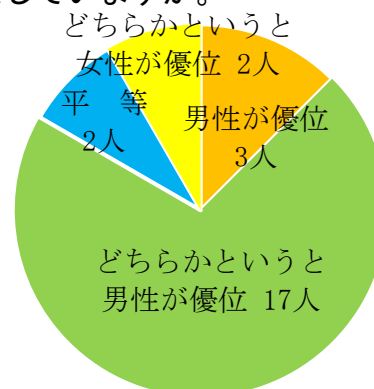
[7] 法律・制度の中での男女平等感について、普段どのように感じていますか。

No.	選択項目	回答数	割合
1	男性が優位	6	25.0%
2	どちらかというと男性が優位	10	41.7%
3	平等	5	20.8%
4	どちらかというと女性が優位	3	12.5%
5	女性が優位	0	0.0%
合計		24	100.0%



[8] 社会全体での男女平等感について、普段どのように感じていますか。

No.	選択項目	回答数	割合
1	男性が優位	3	12.5%
2	どちらかというとも男性が優位	17	70.9%
3	平等	2	8.3%
4	どちらかというとも女性が優位	2	8.3%
5	女性が優位	0	0.0%
合計		24	100.0%

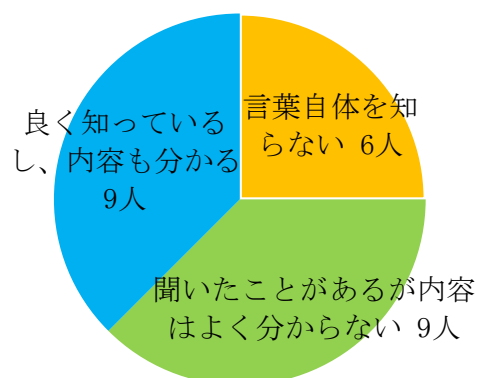


[9] 生産年齢人口の減少が進む日本において、労働生産性の改善は喫緊の課題です。そこでいま、ワークライフバランスの実現が求められています。

ワークライフバランスとは、働くすべての人が、「仕事」と「育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のことです。

この言葉について、次の中から選択してください。

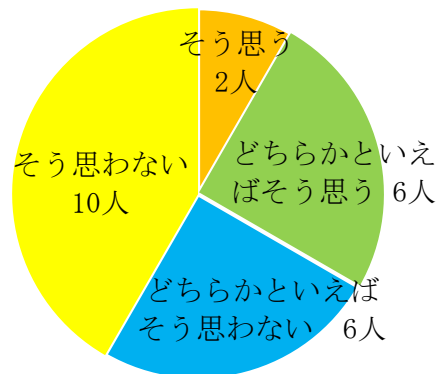
No.	選択項目	回答数	割合
1	言葉自体を知らない	6	25.0%
2	聞いたことがあるが内容はよく分からない	9	37.5%
3	良く知っているし、内容も分かる	9	37.5%
合計		24	100.0%



[10] 配偶者暴力（DV）とは、配偶者または事実婚のパートナーなど親密な関係にある男女間における暴力のことを言います。暴力は、殴る・蹴るなどの身体的暴力だけではなく、人前でバカにしたり生活費を渡さないなどの精神的暴力や、性行為の強要などの性的暴力も含まれます。

夫婦や恋人などからの身体的・心理的な暴力について、被害者にも暴力をふるわれる原因があると思いますか。

No.	選択項目	回答数	割合
1	そう思う	2	8.3%
2	どちらかといえばそう思う	6	25.0%
3	どちらかといえばそう思わない	6	25.0%
4	そう思わない	10	41.7%
合 計		24	100.0%



[11] 男女共同参画社会を実現していくうえでご意見、ご要望、あなたの経験されたこと、感じていることなど、何でも結構ですので、自由に記入してください。

分類	一 覧
意見	子育てしながら仕事してても、結局見下される。それがどうにかならないかといつも思います。金額面でしか評価するものは無いのか？と。家事育児はお給料は発生しないけど、とても大変だと思うので。
	実際参加したくても、子供の送迎があったり、介護していたりすると自分の自由になる時間がないのが現実問題となります。社会でフォローする体制がないと先には進めません。
	男性も家事を手伝ってほしい。 まず、こういった表現が間違っているとずっと思っています。手伝うものではなく、一緒にやる、協力して行うものであり、どちらかが手伝うというスタンスがまずどうかと考えてしまうことがあります。 また、女王や〇〇女子駅伝など、男はつかないのに何故か女はわざわざつける。昔からの長い時代の流れはありますが、本当の平等は制度とともに、我々の考え方をしっかりしなければならないと思っています。
	経済の発展と拡大を図る中で、解決する問題だと思っています。結婚後の女性が高額収入を得られる覚悟と選択をすることで、共同参画社会の形態が形成されるでしょう。まだ、女性の覚悟が弱いと思います。
	労働力不足が加速し女性の社会進出が喫緊の課題といわれているが、身近なところでは箱根町内の若い働き盛りの子育て世代が、町外へ転出しています。労働力の流出防止も重要課題である。

分 類	一 覧
意見	<p>体力的に不利な女性に重たいものを持たせない、徹夜させない、ということでは男の自分の方が多く仕事をしてきた感がある。しかし、女性もそれを理解し、それが当たり前と思わずに女性にしかできない心配りのある仕事をしてきた。生物学上の体力の違いを理解した上で、男だから、女だからと、意識せずに自然に取り組むべきである。男女共同参画と唱えなくても良い平等な社会が実現できると良いですね。</p> <p>男性と女性は身体の構造から違うので、何でも平等は難しいと思います。男女でできるところとできないところを認め合い、助け合えたらいいなと思います。</p>
提案	<p>子供が小学校低学年位までは、男性も子供と関わる事が多いが、実際に子供を育ててみて、成人し就職して一区切りだと感じたので、子供が独り立ちするまでは、家庭内に関わる事に男性が協力できる制度が必要だと思います。常に家の事に関わってれば、定年後も家庭内の事を共同で行う事で、女性も男性も元気でいられるのではないかと考えます。</p> <p>役場、議会での女性の積極的登用。夫婦所得合算のうえ1/2にして所得税の計算をする（配偶者控除の廃止）。育休、産休後の元の職への復帰。</p> <p>まず、行政的に見ても、町長さんは、男性、副町長さんも、男性なので、女性が町長やリーダーになりえるのであれば、変化が生まれるのかなと思います。あと、町内にある、公衆トイレは洋式を多くして欲しいです。便座もなく冷え冷えしたトイレを、観光で来た方が使用するの、可哀想です。</p>
感じたこと	<p>セミナーで男女差別の体験授業を受けました。自分が無意識に男女差別を容認している部分があり、根強い問題と痛感しました。</p> <p>男女平等は、とても良いことだと思います。ただ、女性でも生理だから仕事を休む・楽にして欲しいなど、女性特有の事もあり、全てが平等になるのは難しいと思います。</p> <p>お互いが歩みよった考え方が良いと思います。夫は、育児や家事を率先して行ってくれており、お互いにバランスを取っています。</p>